

# 平成26年度 東日本大震災 被災組合員支援事業実施報告書



はじめに	・・・・・・・・・・・・	P 1
I 趣旨・目的	・・・・・・・・	P 1
II 事業実施概要	・・・・・・・・	P 1
1】 業務用軽ワゴン車の共同利用	・・・・	P 1
2】 被災地相談員の設置による	相談対応の拡大	・・ P 1
3】 復興BOXティッシュを配置し、被災地の	来客者に衛生面でのアドバイスを行う	・・ P 4
4】 さんまバーガーの共同普及販売	・・・・	P 7
5】 現況調査の実施	・・・・	P 10
III 課題点 今後の展望	・・・・	P 12



平成27年3月

岩手県飲食業生活衛生同業組合

# 平成26年度東日本大震災被災組合員支援事業実施報告書

岩手県飲食業生活衛生同業組合

## はじめに

東日本大震災で甚大な被害を受けてから、復興に向けて努力し4年が経ちました。

ようやく防波堤・復興道路の整備等が目に見えて進み始めました。

住宅地と市街地の再生が本格化し始め、仮設で営業又は他地域で仮営業している組合員は本設再開の岐路に立たされてきています。

今まで内在していた土地取得・資金繰り・自身の高齢化等多種多様な課題が現実化してまいりました。

昨年に比べて、本設店舗再開に意欲的な組合員が増えてきている反面、苦渋の選択に悩む組合員もたくさんいる現状を見過ごすわけにはいきません。ますますきめ細かい継続的な支援が必要と実感しております。

又、商店街を形成していくために、地域住民のニーズにどのように応えていくかも大きな課題となってきております。

## I 趣旨・目的

- \* 被災組合員が自立再建意欲を失わないよう、組合員の力となれる事業を実施します。
- \* 被災組合員の相談にのり、営業支援・自立再建への支援、又被災支部の活動の後押しをします。

## II 事業実施概要

### ① 業務用軽ワゴン車の共同利用

軽ワゴン車3台を組合でレンタルし、陸前高田支部で2台、山田支部で1台共同利用しました。

お客様アンケートでは、住まいが店より10キロ以上離れているという回答が全体の60%近くを占めており、宅配・出前を望む声が多くがありました。

仕入業務等だけでなく、地域住民の支援ともなり利用価値は高いです。

一日平均70キロから80キロ使用しており、いまや日常の業務に欠かせないものとなっています。使用者は必ず日誌を記入し管理をしています。



ほとんどの組合員が仮設店舗であり立地条件が悪い場所の為、軽自動車でしか入れないような道路が多い。軽ワゴン車は組合員の物資・資料の配達にも役立ち組合員を繋ぐなくてはならない足です。

(陸前高田支部)

#### 【組合員の声】

◇仮設店舗で営業を再開している店は倉庫のスペースをとる余裕がなく、共用の器具等の保管にも苦慮している。この打開策として、軽ワゴン車は保管が可能であり、更にそのまま移動することができるので大きな力となっています。

◇仕出し・仕入れ共に容量が多い。ワゴン車は大量の注文に対応できとても役立っています。

◇出前・配達・買物など幅広く使用させていただいている。特に出前ができることが組合員の売上へと繋がり、ありがとうございます。

◇要望：3年間なら3年間続けて使用できるようにはできないのか。

利用頻度が高いので、空白があると頼りにしている分辛いものがあります。

### ② 被災地相談員の設置による相談対応の拡大

沿岸6支部に相談員を配置し組合員の相談に対応しました。被災地での融資相談実績は本年度6件ありました。今後、増加していくと予想されます。

12月15日、県指導センター主催の被災地生衛業者支援策説明会に併せ、被災組

合員との懇談会を開催。その際にも相談員から組合理事長や組合幹部へ、被災地の現状や課題等の報告がありました。

#### 【被災組合員との懇談会】

日 時 平成26年12月15日（月） 午後5時～5時30分

会 場 大船渡会議所

出席者 大船渡支部10名・陸前高田支部3名・県組合理事他4名・県指導センター3名

#### 【現状・意見・要望等】

- 仮設で営業（大船渡）している。平成29年3月までの予定ですが、その後は、地主の関係で本設するか、ハッキリわからない。
- 毎年何も変わっていない。（予定も立てられない）
- 早く立ち上げたい。
- 仮設退去後に建てる場所が無い。
- 他の町で営業している。帰ってきたいが、その土地にお金をかけているので、こちらにもお金をかけることが困難である。
- 店を再建したくても立てる場所がなく、計画が立てられない。
- 今の場所（仮の土地）で補助金をいただいているので、これから新しい土地に出店となると個人で借り入れしなければならない。非常に厳しい状況です。
- 場所は決まっているが、企画が出てこない。
- かさ上げの土地は決まっているが、自分たちの資金だけでは出店できない。  
オーナーがいる賃貸店舗を期待している。
- 資金繰りが大変。大きな建物（図書館など）に隣接する賃貸店舗を建ててほしい。  
(今の仮設店舗のような建物)
- 仮設の期限は29年3月までです。29年に本設出来るか不安です。  
地主との関係もあるし、ハッキリわからない。
- どなたか、テナントを建ててくれればそこに入りたい。
- 市街地に仮設をそのまま持って行ってほしい。  
(仮設ではなく、キッチンとした建物を望みます)
- 県が盛り上げてくれれば、沿岸もそれに乗って行きたい。
- 飲食店組合に入っていて良かったと思える組合にしてほしい。
- お客様は飲食店を望んでいる。頑張って行きたい。
- 営業許可証は、組合を通してもらえると良い。組合員も増えると思う。
- 飲食店は増えているが組合員は減っている。加入のメリットを明確にするべきである。  
組織の意識を変えて行かないと先細りする。
- 要望書は何度も出しているが、反映されない。
- 県のアンケートも来ているが、自分たちの計画を提示してからが良いのでは？
- 時間がかかりすぎて、進み方がまちまちです。  
ハッキリした先が見えないので、進もうと思っても進めない。
- 後継者がいなく、年齢も上がっていく。本設にお金を掛けれない。
- 仮設に投資してしまったので本設にお金を掛けれない。10年先を考えると不安です。
- 【指導センターより】  
○ 皆でコミュニケーションを取って、どうすれば良いかを話し合っていただきたい。  
一般市民も巻き込んで、組合の盛り上がりを図って行ってほしい。

#### 【相談員の声】

##### 「相談員の目から見た復興状況」

- 大船渡支部  
津波浸水区域のかさ上げ工事、造成及び道路・河川の拡幅工事がやっと始まったが、その土地を使用できるようになるには後2～3年後とのこと。本当の復興までにはまだまだ年月がかかりそうだ。
- 陸前高田支部  
市街地のかさ上げは進んでいるが、商業者が営業を始めるのは平成29年以降となる見込み。
- 山田支部  
本格的なかさ上げで、仮設店舗の方々の移動も始まり、やっと町の方向性も見えてきました。  
まだまだ時間はかかりますが、一歩づつ進んでいるようです。
- 釜石支部

- 釜石中心街だけで見ると復興は進んでいると思われます。町の中心街には大型ショッピング店イオンが出店。近隣には大型ホテルが次々開業し、組合員も何店か移転開業し始めています。しかし、近隣の町（大槌、鶴住居地区）は盛土の段階で4年も5年も先になるかと思います。
- 宮古地区  
待望の復興住宅が急ピッチで建設され、完成に近づいています。早く被災された方々が入居されることを願っています。又、JR山田線、宮古～釜石間が三陸鉄道として開通することになり、明るい話題が増え、徐々にではありますが復興の兆しが見えてきたように思います。
  - 久慈支部  
組合員の皆様全員営業し、頑張っております。

#### 【支部組合員の近況】

- 大船渡支部  
現在、まだ多くの組合員が仮設店舗で営業している。又、せっかく本設して営業していたにもかかわらず、土地のかさ上げ工事のため、立ち退きをさせられたり、間もなく立ち退き予定の組合員もいる。仮設店舗から別の仮設店舗へ移動した組合員もいる。  
本当の本設に至るまで。二度も三度も借金せざるをえない状況であり、休業や廃業も考えなくてはならない状況です。
- 陸前高田支部  
ほとんどの組合員が仮設店舗で営業しています。  
本設希望は約三分の一、テナント希望三分の一、残る三分の一が未定となっています。
- 山田支部  
仮設店舗で営業している人がほとんどですが、移動にもめげず頑張っています。  
組合員が減っているが、意見を出し合い力を合わせて、増員に向けて活動しています。
- 釜石支部  
元々テナント事業者が多いので、再建するには、いろいろな問題があります。  
組合員で再開できている人は一割程度です。  
まだまだ仮設店舗から移転できない人には次のような理由があります。  
  - ①補助金の対象にならない人
  - ②移転すれば、家賃が発生、金銭的負担が重い。
  - ③年齢が高齢である。
  - ④移転の問題すら考えられない。（心のケアが必要と感じる）
- 宮古支部  
組合員は全員営業しているが、復興としてはまだ完全ではありません。日夜頑張るのみです。
- 久慈支部  
食材の高騰と人手不足がだんだん響いてきてる。  
売上も伸び悩み、来街者の利用頻度が減ってきてる。震災後落ち込んで「あまちゃん」の放送でいったん活気づいたが、急激に落ち込んでいる。

#### 【現在感じている事】

- 大船渡支部  
グループ補助金を申請して採択された組合員も多数いるが、まだ本設に至っていない為補助金が使えないでいる。2～3年後になると予定した資金では足りないとと思う。その借入のために多数の組合員から相談が寄せられることが予想される。  
大船渡市の津波復興拠点エリアに出店申込みをしている組合員が多数いるにもかかわらず、他人ごと、人任せが現状で、今、組合員の意識改革が大切であると思います。
- 陸前高田支部  
組合員の平均年齢が上がっている為、営業を続けることが困難と感じている方々がいる。  
後継者不足という面もあるが、懸念事項である。
- 山田支部  
町ができるだけが復興ではないと思う。少なくとも震災前の人口、売上など商業漁業共にこれからが本当の復興に向かう第一歩ではないかと思っています。  
若い人の働く場所、鉄道の問題等々これからどうなるのか不安な毎日を送っています。
- 釜石支部  
震災後4年も経ちますが、行政と被災者の間には色々問題があります。  
4年も経つのだから自立する力も必要という意見もあるが、まだまだそこまでは至っていません。たてまえ行政の枠を超えた補助が必要だと思います。
- 宮古支部  
各会員は人手不足（従業員の確保）等に苦心しているようです。復興関係者（特に建設関係者）

が三陸に入って来ているようですが、その方々が夜の街を盛り上げ活性化してほしいです。

○久慈支部

売上を期待できる要素が全く無い。現状維持をと思っている組合員が大半だが、それすらも大変になってきている。しかし、年齢的なこともあり、行動を起こせないのが現実である。

商工会・観光協会と一緒に取り組みたいが、組合員の優先は望めない。地域性もあるが、モチベーションアップの方向性を探りたい。どんな手助けをすればよいのか教えてほしい。

③ 復興BOXティッシュを配置し、被災地の来客者に衛生面でのアドバイス等を行う



沿岸 7 支部 170 店舗に計 21,200 個の復興支援 Box ティッシュを配置しました。来客者に飲食業の安心・安全等をアピールすることにより、仮設店舗での生衛業のイメージ向上に努め、被災地での衛生水準の維持確保に貢献しました。

同時に来客者にアンケート調査を実施し、265名から回答を得ました。店舗再開の情報を知りたい。飲食店が集合した地域がほしいなど今後の事業の参考になる意見がでました。

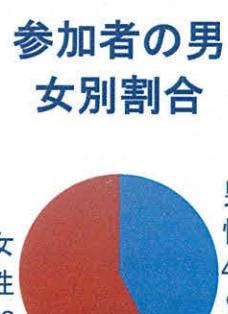
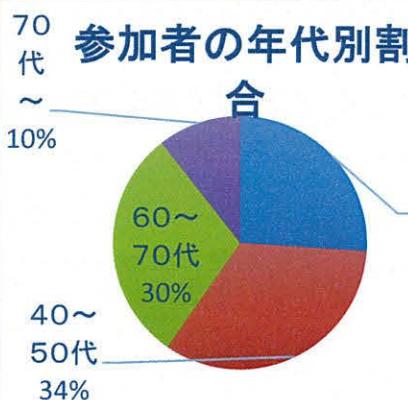
又、来店者は飲食店から 10キロ以上離れている等、被災地での消費者の現状等が把握できました。

《平成 26 年度飲食業組合 東日本大震災支援事業アンケート結果》

■回答者属性

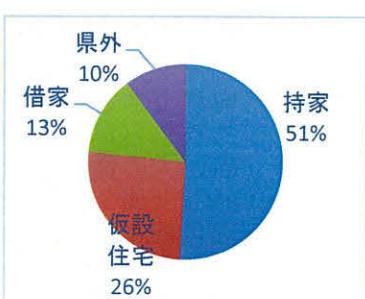
年 齢	
20～30代	69
40～50代	89
60～70代	79
70代～	28
計	265

性 別
男性
女性
計



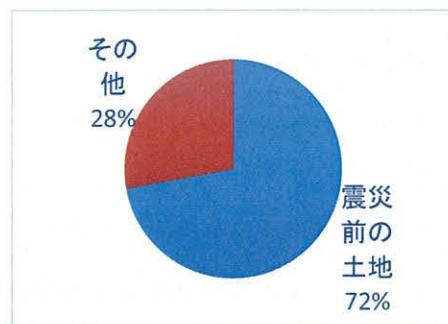
■今のお住まいは？

持家		仮設住宅		借家		県外
近所	離れてい る	近所	離れてい る	近所	離れてい る	
67	62	13	43	9	26	
135		68		35		27



■仮設住宅・借家の方にお尋ねします。将来の移転先は？

震災前の土地	その他
44	17



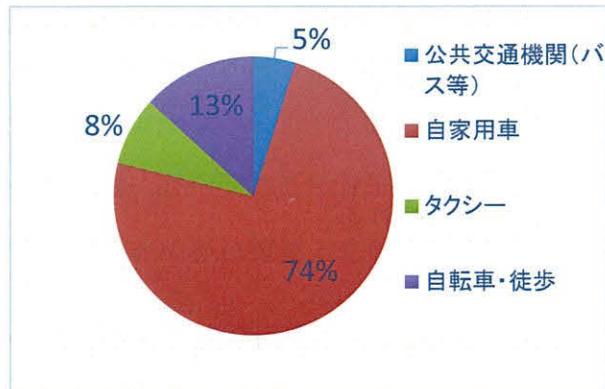
■飲食店の利用頻度

	1回	2～3回	4～5回	6～7回	回以上	合計
週	46	20	3	2	0	71
月	46	94	20	0	4	164
年	1	6	4	0	0	11
今回たまたま	19	0	0	0	0	19
総合計						265

月2～3回	35%
週1回	17%
月1回	17%
週2～3回	7%
月4～5回	7%
今回たまたま	7%

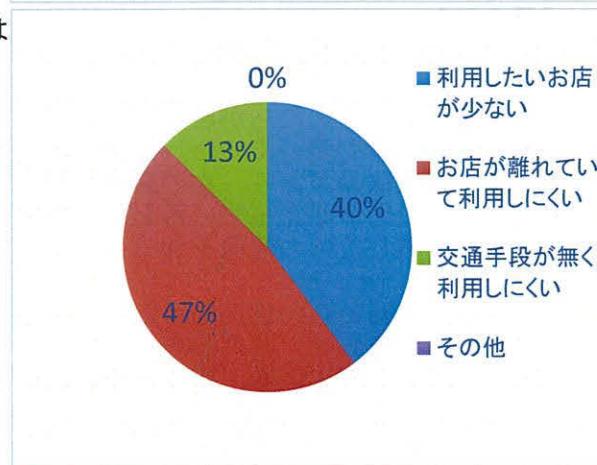
■お店を利用する際の交通手段は？

項目	人数
公共交通機関（バス等）	13
自家用車	196
タクシー	21
自転車・徒歩	35
合 計	265



■飲食店を利用するにあたり問題点は

項目	人数
利用したいお店が少ない	41
お店が離れていて利用しにくい	49
交通手段が無く利用しにくい	13
その他	
合 計	103



## ■飲食店又は行政に対する感想・希望

### 【お店に望むこと】

- ・月曜日の休みが多いのが残念
  - ・スタンプラリーやランチパスポートのようなイベントを望む。
  - ・美味しい店を目指す姿勢を持ってほしい。
  - ・昼食を食べる店が少ない。
  - ・宅配・出前をしてほしい。 (多数意見)
  - ・呑んべい横丁が以前のような雰囲気で復活してくれたら嬉しい。
  - ・ランチパスポートのような企画をし、気軽に外食する機会を作ってほしい。
  - ・時間を忘れてゆっくり話せる店があれば最高
  - ・常にうまいものを作るという、向上心を望む。

## 【営業時間について】

- ・24時間営業店を希望 2人
  - ・遅くまでやっていない店が多い。
  - ・居酒屋ももう少し営業時間が長ければ嬉しい。
  - ・22~23時まで利用できる店がほしい。

## 【交通手段について】

- ・運転代行がつかりにくい 2人
  - ・近所に店がないのでバスを利用しているが、大変

## 【どんな飲食店がほしいか】

- ・カフェ（おしゃれで、ゆっくり話ができる店） 3人
  - ・イタリアンか洋食店 2人
  - ・回転すし 2人
  - ・焼肉店
  - ・カラオケボックス
  - ・和食の店
  - ・安くておいしい店
  - ・食べたいものが多いが、辛いラーメン等あれば良い。
  - ・子供がおむつを替えられるような設備のある店。子供用のいすや座布団を備えてほしい。
  - ・食事メインに軽くお酒も飲める店
  - ・夜、アルコール抜きで、女子会ができる店
  - ・子連れで行ける店。子供メニューがある店。
  - ・チェーン店・定食屋
  - ・多用なジャンルの店
  - ・ファミリーレストラン
  - ・フードコートのような店
  - ・気軽に行ける店

## 【行政への希望】

- ・行政の  
用でき
  - ・復興住宅の完成が遅れている。仮設から仮設への引っ越しもあり得ると思うが、引っ越し  
ばかりで疲れる。
  - ・希望を言うまえに展望が解からない。町の計画をもっと知らせてほしい。
  - ・これか  
広く市
  - ・飲食店が集合した地域を造ってほしい。

### 【その他】

- ・松倉方面にも店がほしい。2人
  - ・再開したと聞いて食べにきました。早く前のように復興してほしい。
  - ・復興にかかる人たちが居なくなると、これからが不安。
  - ・震災前は沿岸で働いていた。もう一度沿岸で働きたい。
  - ・仮設店舗の移動があり、次の店舗を探すのが大変。又、仮設は同じ建物のため間違える。
  - ・もう少しお店が纏まっていると1ヶ所でいろいろ選べて良い。
  - ・営業を再開した店の情報を知ることが難しい。
  - ・各飲食
  - ・現状では、おいしい店があったとしても知る機会が少ないよう思う。
  - ・知名度があがれば、県外からも人を呼べる。
  - ・店から店が離れている。定休日であれば別の店に行くのに時間がかかる。
  - ・営業しているのか解からない外見の店が多い。
  - ・飲食店のメニューが解からず利用しづらい。マップがあれば良い。

#### ④ さんまバーガーの共同普及販売

普及販売に使用する器具を県組合で購入し、被災支部に貸与した。「東京タワーさんままつり」「三陸大船渡さんままつり」等に出店したが、グリドルと作業台の導入により、効率よく調理ができ、お客様を待たせることなく好評で、さんまバーガーを県内外にPRできた。普及啓発を支援し、地域活性化にも貢献できた。

#### イベント報告書

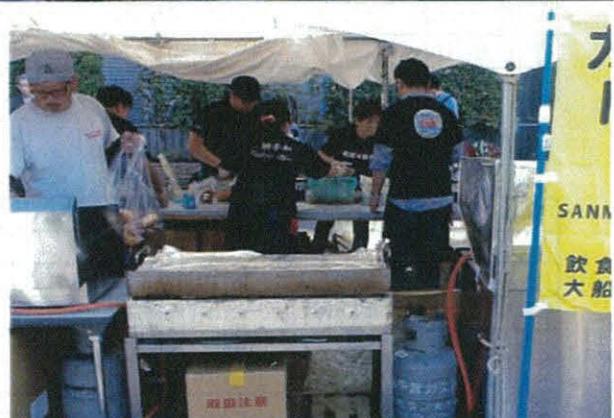
開催日	平成26年9月23日(火・祝)	
イベント名	三陸・大船渡 東京タワーさんままつり	
開催場所	東京タワー屋外特設会場	
参加者	KAIZAN	1名
	鮭不知	3名
	BLUE CORN	1名
	らんぶ亭	1名
	合計	6名
イベント概要 及び 機器使用感想	<p>東京タワーの高さにちなんで、大船渡直送のさんま3,333匹の炭火焼き無料提供のほか、秋の旬の味を振る舞い、来場者に大船渡の元気を届けました。(まつり来場者約1万5千人)</p> <p>岩手県飲食業生活衛生同業組合大船渡支部として、さんまバーガー 1,000個(@500円)を販売いたしました。 天候にも恵まれまして、お昼過ぎには完売となりました。</p> <p>以前までは、大きな重い鉄板と家庭用ホットプレートを使用して調理しておりました。例年、調理が間に合わず、長蛇の列ができてしまい、お客様をお待たせすることが多々ありましたが、今回のグリドルと作業台の導入により、効率良く調理ができ、ほぼお客様をお待たせさせることなく販売できました。</p>	



## イベント報告書

開催日	平成26年10月25日(土)	
イベント名	三陸大船渡さんままつり	
開催場所	大船渡市民体育館	
参加者	BOSCO 1名 鮎不知 3名 喜楽 1名 あげは 1名 千秋庵 1名 ゆめんちゅ 1名 らんぷ亭 1名 合計 9名	
イベント概要 及び 機器使用感想	<p>全国有数の秋刀魚水揚げ基地である「大船渡港」に水揚げされた旬の秋刀魚をふんだんに使った「三陸大船渡さんままつり」。</p> <p>岩手県飲食業生活衛生同業組合大船渡支部として、さんまバーガー 200個(@500円)を販売いたしました。 天候には恵まれましたが、例年通り完売までには時間がかかりました。</p> <p>今回のグリドルと作業台の導入により、効率良く調理ができたのはもちろんのこと、例年、地元開催のイベントでは、売れ行きが芳しくありません。その際、調理したバーガーを発砲スチロールで保管しておりましたが、時間が経過すると、冷めて美味しいなくなってしまいます。ウォーマーショーケースの導入により、いつまでも温かく保管でき、美味しいまま提供することができました。</p>	





## ⑤ 現況調査の実施

1月被災組合員の現況調査を実施しました。現地で再開・その他で再開した組合員は前年より9店舗増えました。仮設店舗で営業している組合員の中で、本設の意思表示の回答は21店舗あり前向きな姿勢が見られました。

しかし、廃業を検討している組合員もあり、今後よりきめ細かい支援が望まれます。

### 調査結果

#### 被災組合員の営業状況

支部名	現地で再開 店舗が元々 あった場所	仮設店舗で 再開	その他の 場所で再開 (別の場所)	休業中 営業再開の 意思あり	廃業	被災後 速やかに 営業継続	不明	調査対象 組合員数
久慈	1	0	0	0	0	13	0	14
山田	3	3	8	0	0	2	0	16
釜石	9	7	7	3	0	7	0	33
大船渡	6	26	14	1	0	2	4	53
盛	4	0	2	0	0	15	0	21
陸前高田	0	12	10	0	0	1	0	23
合計	23	48	41	4	0	40	4	160

#### 仮設店舗者の今後の意向

支部名	どうしていいか 判らない	本設展開を予定	仮設撤去後は 廃業を検討	合 計
久慈	0	0	0	0
山田	2	1		3
釜石	5	2		7
大船渡	14	10	2	26
盛	0	0	0	0
陸前高田	5	8		13
合計	26	21	2	49

#### 本設予定者の展開予定期等

支部名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	時期未定	合 計
久慈								0
山田				1				1
釜石	1	1						2
大船渡	1		2	4	1		2	10
盛								0
陸前高田			2	2	1		3	8
合計	2	1	4	7	2	0	5	21

#### 組合員の現状・要望等

##### 【大船渡支部】

- \* 1日も早く本設での営業を望みます。
- \* いつかはよそから来ている人達は帰ってしまいます。その時今のまま営業を続けていられるか不安です。
- \* 資金繰りが心配。  
行政に意見が通りにくい。 大船渡の将来のビジョンが見えない。
- \* 東日本大震災から3年9ヶ月が過ぎて仮設店舗で再開、3年が過ぎました。店舗改装費に300万円を銀行より借入して利息を大船渡市から出してもらっています。  
本設の店舗で再開しても3年、5年後に大船渡市の人口が何人減少するのか心配です。  
又、他県より来ている県職の応援や市内の復興業者の終了後の人口減少も気になります。
- \* 被災後に初めて営業し、組合に入部しました。  
当時は、被災店舗に籍を置き、その店の再開時までお手伝いをしていましたが、色々な都合で自分で店舗を仮設にて始めました。今後はテナントで入店する予定です。  
これからもわからないことが多いことと思います。ご指導をお願い致します。

- \* 運転資金が心配。
- \* 復興がなかなか進まない中、仮設店舗で営業をしていますが、撤去時まで一生懸命頑張ります。（仮設撤去後は、廃業を検討）
- \* 現在年齢が64歳です。復興までまだかかると思います。大船渡の町を作らなきやと思うが、不安でいっぱいです。
- \* 平成26年6月末で市との契約が切れ、市と地権者との借地契約が切れる8月末をもって9月初めに同じ場所で本設工事に着手。12月中旬に開店の運びとなつた。  
年齢による体力的な不安、本設に掛かった不足費用の調達など心配が絶えないが、今のところ売上は順調に推移しています。
- \* 本設建設予定地のかさあげ終了時期よりも、仮設店舗の立ち退きが1年から1年半くらい早まりそうなことが心配。  
1年から1年半休業を余儀なくされるため、従業員へ支払う給与を確保できるか不安です。  
震災時に一時的に解雇し失業保険を受給したので、今回解雇したら、再度受給できるかどうか不明です。もともと人材不足なのに戻ってきてもらえないと大変です。

#### 【釜石支部】

- \* 仮設店舗で約2年8ヶ月営業しましたが、26年11月7日に元の場所にオープンすることができました。しかし、県・市の方のかさあげや、歩道整備の遅れで、工事費が嵩み大変でした。元の場所は、下水が詰まって、排水が悪く、大雨が降ると道路が冠水して営業に差しつかえます。早く、市の方で対処してほしいと思います。
- \* 平成27年5月営業を目指していたが、資材高騰で工事契約が遅れ、その間の自己資金が不安。グループ補助金の迅速な拠出をお願いしたい。（概算請求の手続きの簡素化）
- \* 今まで足を運んでくださったお客様が遠い仮設などに入り、「足が無い」「タクシ一代・運転代行代が高い」などの理由で、お客様が少なくなってしまった。  
週2~3回でもシャトルバスを出していただけたら有り難いと思っています。
- \* 天候により、時々冠水が起きて困っている。
- \* 人手不足。
- \* 現在仮設店舗で営業されている皆さんも、町の中心街へ移店の動きが出てきております。  
今まででは家賃免除や、店舗の設備など皆さんの援助のお蔭で商売がスムースでしたが、移転では様々な問題があり、悩んでいます。  
①年齢（他に移るには、高齢化がネック）②資金（移店資金・家賃運営資金等）③行政との様々な手続き
- \* 復興に携わる方々が釜石から居なくなり、客数が半減しました。この先が不安。消費税も上がる事も心配です。
- \* 観光地としての環境が破壊された中、新しい魅力創りに色々挑戦しているが、人件費を生み出すまでにはいかない。しかし、人材がなければ新しいチャレンジもできず資金不足に悩んでいる。これ程、復興に時間が掛かるとは思わなかつたので、計画にズレが生じて今資金繩が一番厳しい。三陸に観光客がきてくれる「きっかけ」を官民一体で、今こそ行動しなければ、又岩手三陸は忘れられた未開の地になりそうで、暗澹たる気持ちです。  
助ければかり願っているようで心苦しいですが、今は資金調達の応援を一番願います。
- \* 現存の銀行ローンの借り入れの返済に苦慮（現在休業中）
- \* 店舗は被災しませんでしたが、道路の土盛りや、市の土地買い上げなどにより駐車場確保が今後の課題です。

#### 【山田支部】

- \* 別の場所で再開したが、国の補助が受けられず、小さな店しかできなかつた。  
グループ補助でなくても、個人にも支援・補助がほしかつた。
- \* 共同仮設（自費）で営業しているが、町の復興が遅れているので、まだよくわからない。
- \* あと何年かかるのかわからない。復興の遅れに苛立ちます。  
当店のかさ上げは来年3月からですが、営業再開を目指すにも、建設費（材料費）の暴騰、震災前の価格の倍以上です。土地代も同じ。後継者問題、高齢でいつまでかなと思うと苛立ちの毎日です。
- \* 今の営業場所は、被災前住宅地であり、風俗営業が取れるか不安です。
- \* 震災直後、一日も早く営業を再開したいと思い、震災の年の12月に自宅横の駐車場を店舗にしました。その時に信用金庫から10年間無利子で1,000万円を借り入れました。  
翌年にグループ補助金制度の事を知り、地元の商工会に問い合わせたところ、既に店舗が完成して営業していれば補助金制度に当てはまらないといわれました。  
一日も早い復興をと頑張って再開したのですが、もう少し待っていた方が良かったのでしょうか。

### 【陸前高田支部】

- \* 運転資金が足りなく、営業再開に不安。
- \* 販路先の開拓に苦慮している。
- \* ホテル周辺が開発途上であり、アクセスが不便。
- \* 周辺の観光素材がまだ少ないので集客に困っている。
- \* 津波で流された店舗で祖父の代から50年やってきましたが、建物を借りて営業していたので、本設の店を建てる時にグループ補助金が建物に対して適用されず、自宅の再建と重なるので、多額の資金が必要となり店舗の再建が難しい。
- \* 新市街地での本設展開の件数が、組合員の高齢化で、決断を鈍らせている。
- \* どの場所で再開できるのかも未だ決められない。
- \* 仮設店舗には期限がある為、新店舗を確保しなければ休業を余儀なくされる。
- \* グループ補助金など期限があるのか。詳しい説明があればよいのだが。
- \* 借家だったので、本設には多額のお金がかかり、なかなか計画の目途が立たない。
- \* 希望より常に不安の方が大きい毎日を送っています。今後の予測がいまだに見当がつきません。店舗の再建・住宅の再建・子供の教育費（2人大学）がこれから10年いや5年で一気にきます。資金がいくら必要か、考えただけでもキツイです。残りの人生、借金を返すだけの人生になりそうです。アンケートをとっていただくことはありがたいが、飲食業の最大の繁忙期に調査を出すこと事態、現状を全く解かっていないと思わざるにはいられませんでした。飲食業として、復興に貢献できることを頑張ります。
- \* 高台・換地場所で住宅兼店舗にしたいが、グループ補助金に代わる支援があるのかどうか知りたい。商業地を離れて経営が成り立つか不安です。  
街の進み具合にもありますが、仮設店舗が有料でも延長してもらえると、廃業を検討している人も続けることを前向きに考えられる。  
飲食店に限らず、店が減ってほしくない。

### III 課題点・今後の展望

ハード面の復興が目に見えて進んできましたが、中心部再生が進んでいくと、それぞれの組合員は、本設に向けた土地の取得・資金繰り・高齢化等々多種多様な問題が現実化してきます。飲食業は、元々テナント事業者が多く、ますます復興格差が表面化し、揃って前を向くには課題が多すぎます。

そろそろ自立をという声も聞かれますが、決断するには大きな迷いを持っている組合員が多いことも事実です。これからが本当の営業再開の支援と捉え事業をしてまいります。

- 1) 自立再建意欲を失わないよう組合員の力となれる事業を実施します。
- 2) 飲食店の情報P R体制の確立を検討してまいります。
- 3) 街の賑わい創出を念頭に他の生衛組合や、行政、地域と連携したイベント等の支援をしてまいります。